

2010 慰霊の日 市長メッセージ

本日、65回目の慰霊の日を迎えるにあたり、沖縄戦全戦没者の御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

沖縄県は、去る大戦において、軍人・軍属のみならず、一般住民をも巻き込んだ悲惨な戦闘によって、24万人余の貴い生命、財産及び貴重な文化遺産を失いました。

あの激しかった戦禍の中、肉親の行く末を案じつつ、亡くなられた御霊の無念を思うとき、深い悲しみと痛恨の情が胸に迫るのを禁じえません。

ここ八重山においても、人々は戦塵にまみれ、惨禍の中、軍命によって悪性マラリア有病地帯へ強制疎開させられるなど、過酷な生活の中で痛苦を味わい、ついには大勢の郡民が戦禍に倒れ、島の人々と日本軍守備隊を含む3千人を超す貴い生命が失われました。

戦争の悲惨さと、そこに幾多の犠牲のあったことを改めて心に刻み、その教訓を次の世代に語り継ぐとともに、世界の恒久平和の確立に努めることが、私たちに課せられた重大な責務であり、犠牲となられた御霊のご遺志にかなうものと確信します。

世界情勢を見ますと、わが国をはじめ世界の主要国が、国連の枠組みをつうじた核廃絶、テロ防止、民族や領土をめぐる紛争の平和的解決という難題に果敢に取り組んでいます。しかしながら、異なる価値観や歴史観、長い間の対立という構図の中で培われた固定観念、そして悲しみと復讐の悪の連鎖など、恒久平和への道のりは遠いと言わざるを得ません。

そのような状況の中で、私は、世界唯一の戦争による被爆国の国民として、また、去る大戦において地上戦の舞台となった沖縄の県民として、二度と戦争をしない誓いをあらためて胸に刻み、異なる文化や立場の方々との相互理解に努め、諸外国との友好親善を推進し、忍耐と寛容の精神を忘れず、粘り強く平和の尊さと戦争の悲惨さを内外に訴えていく必要性を痛感しています。

また本市といたしましては、恒久平和という人類普遍の願いを達成するため、わが国憲法の崇高な理念に基づき、「非核平和都市宣言」と「平和港湾宣言」をより一層発展させ、今後「核廃絶平和都市」宣言を制定し、国境のまち石垣市から平和と命の尊さを広く訴え続けてまいります。

本日、石垣市は、バナナ公園南口において、「八重山戦争マラリア犠牲者追悼式」と「石垣市全戦没者追悼式及び平和祈念式」を挙行いたします。

多くの市民の皆様が、ご参列下さるようご案内申し上げます。また、家庭や職場におかれましては、正午の時報に合わせて、戦没された方々の御霊に対し、一分間の黙とうを捧げて下さいますよう、お願いいたします。

平成22年6月23日

石垣市長 中山 義 隆

2010石垣市平和宣言

本日、沖縄は65回目の「慰霊の日」を迎えました。沖縄本島、摩文仁にある平和の礎には、新たに75名が追加刻銘され、総数24万931名のお名前が記されています。その内石垣市関係者は4千393名となっています。

太平洋戦争末期、国内における地上戦の戦場となった沖縄では住民をも巻き込んだ熾烈な戦闘が繰り広げられ、非戦闘員を含む多数の方々が貴い命を失くされました。さらに、先人から大切に守り継いできた優れた文化遺産もまた、無残にも破壊され、沖縄の豊かな緑の大地は一瞬にして焦土と化し、人々の穏やかな営みは無に帰しました。

ここ八重山でも、軍命により悪性マラリアの有病地帯へ強制的に疎開させられたことがもとで大勢の島民が病魔に冒される結果となり、肉親が見守る中で3千人余の人々が"病死"するという悲惨な結末を迎えました。私たち郡民は、先祖が体験したこの筆舌に尽くし難い極限の状況を「八重山戦争マラリア」として永久に記憶に留め、犠牲者の御霊のとしえに安らかならんことを願うとともに、あのような思いはもう二度としない、させないという誓いを胸に刻まなければなりません。

さらに、ここ石垣島で戦時中に捕虜となった米兵3名が殺害された「石垣島事件」として語り継がれる悲劇もまた、戦争の悲惨さ、過酷さを、如実に物語るものであり、歴史の事実として重く受け止め、後世に引き継がなければなりません。そして、戦後に生まれた多くの市民・郡民は、戦争の実相を知り、私達の祖先の貴い命の犠牲の上に、今日の平和と繁栄があるということを決して忘れてはいけません。

私達は、悲惨な戦争体験や米軍施政下の歴史を通して多くのことを学びました。それは、平和の尊さの再認識であると同時に、平和がいかにもちろく、壊れやすいかという事実であり、いかなる理由をもってしても、戦争は正当化できないという真理でもあります。

21世紀を担う若い世代にこの事実と真理を正しく継承し、世界平和の創造に努めることは、私達の重要な使命であり、平和を脅かす全ての要因を取り除き、安らかで心豊かな世界を実現するための不断の努力を積み重ねなければなりません。

私達は、世界唯一の戦争による被爆国の国民として、人類の生存を脅かす核の廃絶を世界の核保有国に強く求めると同時に、永久に戦争の放棄を誓う国民として、再びあの広島と長崎の惨禍を繰り返さないよう、わが国の政府が核廃絶に向けた強いリーダーシップを発揮するよう求めます。

私たち石垣市民は、恒久平和という人類普遍の願いを達成するため、わが国憲法の崇高な理念に基づき「非核平和都市宣言」と「平和港湾宣言」をより一層発展させ、今後「核廃絶平和都市」宣言の制定を目指し、国境のまち石垣市から平和と命の尊さを広く訴え続けてまいります。

慰霊の日にあたり、全ての戦没者の御霊に心から哀悼の意を捧げるとともに、市民一人ひとりが世界友好のかけ橋となり、その英知と情熱を結集し、世界の恒久平和の実現に向かって力強くまい進することをここに宣言します。

2010(平成22)年6月23日

石垣市長 中山 義隆